

2025年度
さくらねこ無料不妊手術事業
一般枠アンケート
集計結果



公益財団法人
どうぶつ基金
ANIMAL ACTION FUND

有効回答数
1,047 件



さくらねこ無料不妊手術事業とは

どうぶつ基金の「さくらねこ無料不妊手術事業」は野良猫や多頭飼育の猫に対して不妊手術を行い、猫への苦情や殺処分の減少に寄与する活動です。

2025年度は2,619名の個人（一般枠）、38団体、371の行政と協働し、53,643頭のさくらねこ無料不妊手術を実施しました。

一般枠での無料不妊手術実施数 **15,183頭**

団体枠での無料不妊手術実施数 **2,019頭**

行政枠での無料不妊手術実施数 **35,723頭**

多頭飼育救済枠（行政枠）での無料不妊手術実施数 **718頭（うち犬19頭）**

無料不妊手術実施頭数 総合計：53,643頭

（各実施数は2026年4月30日時点の集計による）

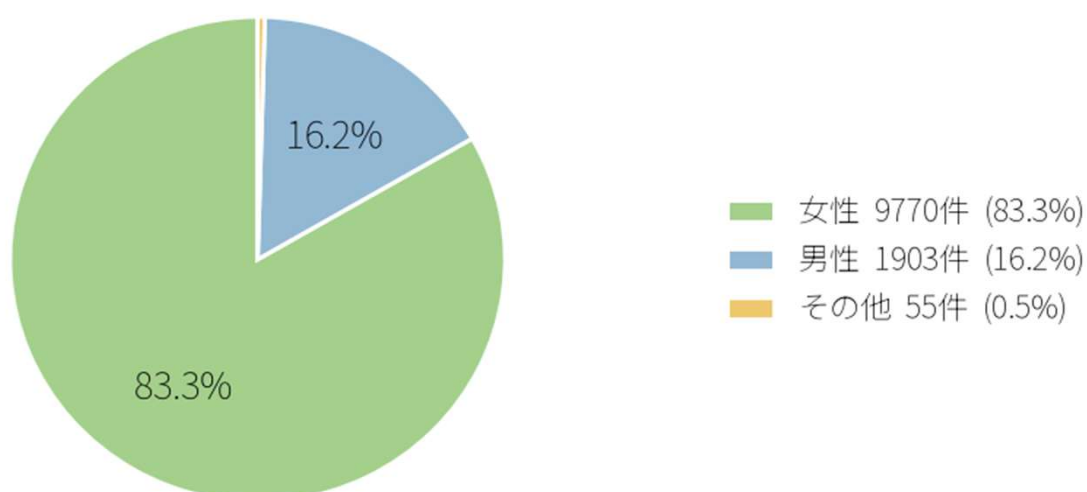


1. 一般枠ボランティアの属性

「さくらねこ無料不妊手術事業」に登録している協働ボランティアのうち、行政枠、団体枠に属さない個人ボランティアを指す。2025年3月31日時点で11,728名が登録している。

■ 男女比

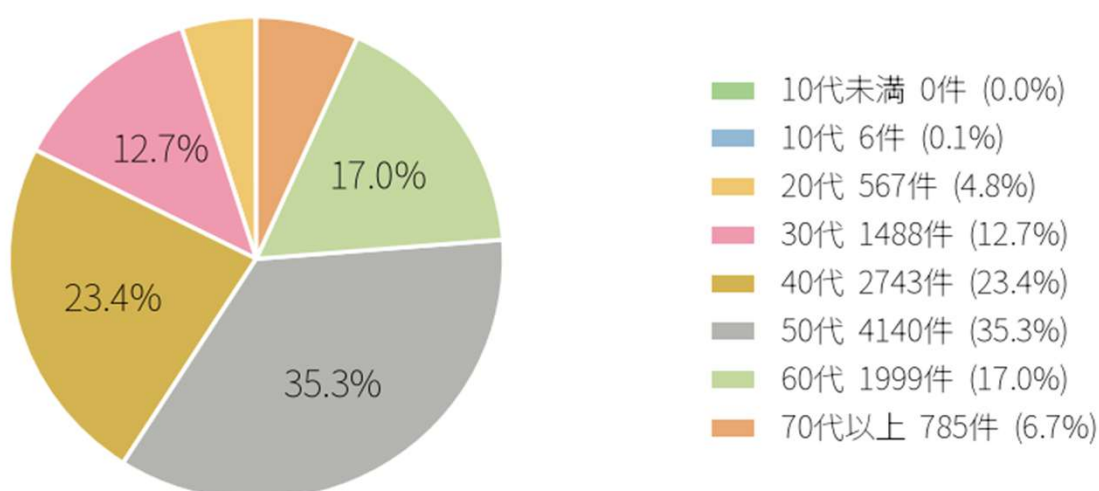
有効回答 11728件



女性が83.3%を占め、猫ボランティア活動の担い手が女性中心であることが改めて確認された。男性ボランティア（16.2%）の参加促進が、活動の持続性を高める上での重要なテーマとなっている。

■ 年代

有効回答 11728件

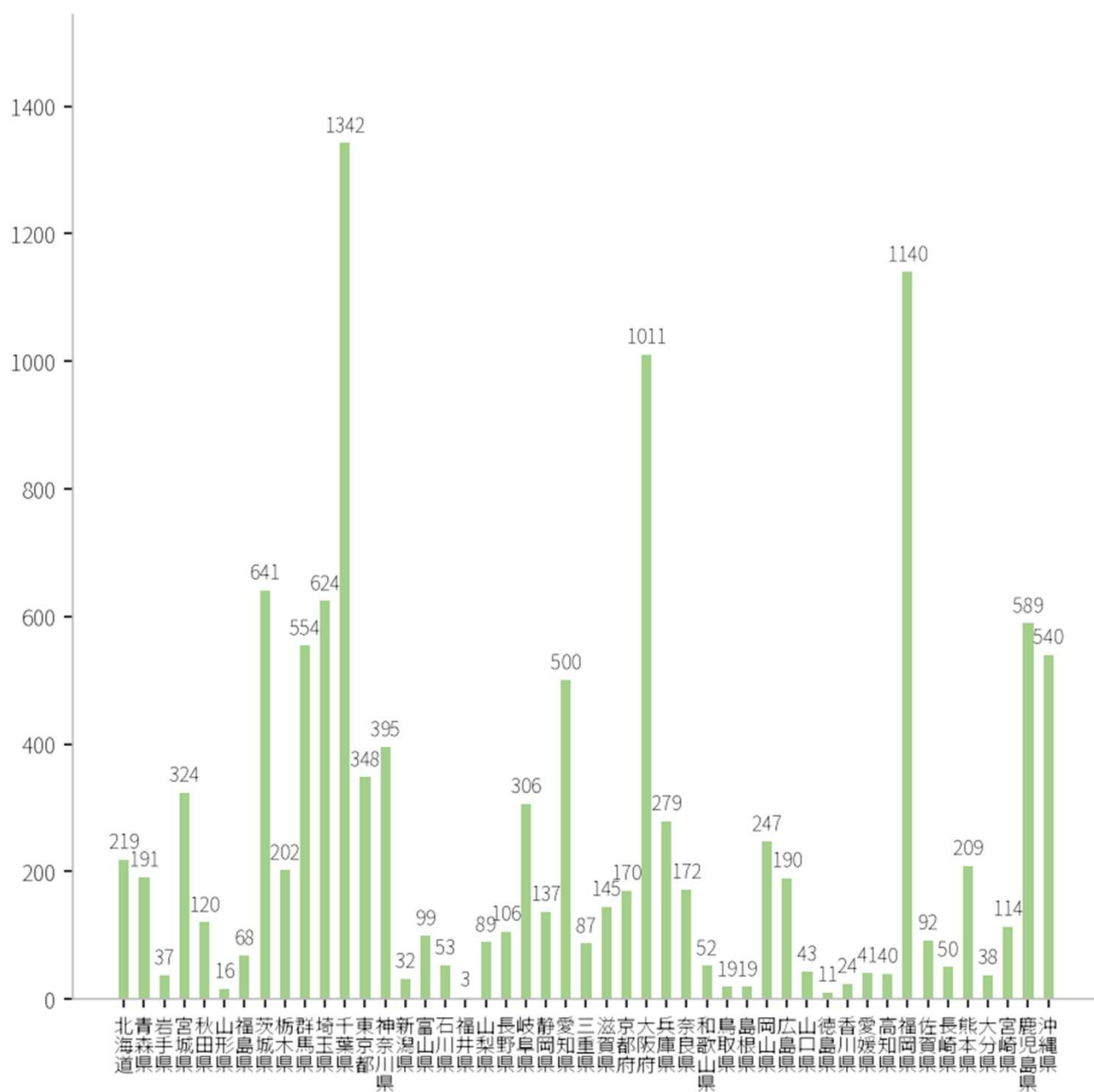


50代が35.3%と最多で、40～60代で全体の75.7%を占める。一方、20～30代の参加は合計17.5%にとどまっており、次世代への担い手育成と参入しやすい環境づくりが中長期的な課題として浮かび上がる。



■ 居住地域（都道府県別）

有効回答 11728件



茨城県・大阪府・神奈川県など関東・都市近郊での登録が多く、都市化に伴う地域猫問題と活動の相関が見られる。全国各地に活動が広がっており、さくらねこ事業の全国展開が着実に進んでいる。

2. アンケート対象者

2026年3月31日時点で「さくらねこ無料不妊手術事業」の一般枠ボランティアとして登録している11,728名を対象にアンケートを実施した。2025年度は11,728名中2,619名がさくらねこ無料不妊手術チケットを申請している。

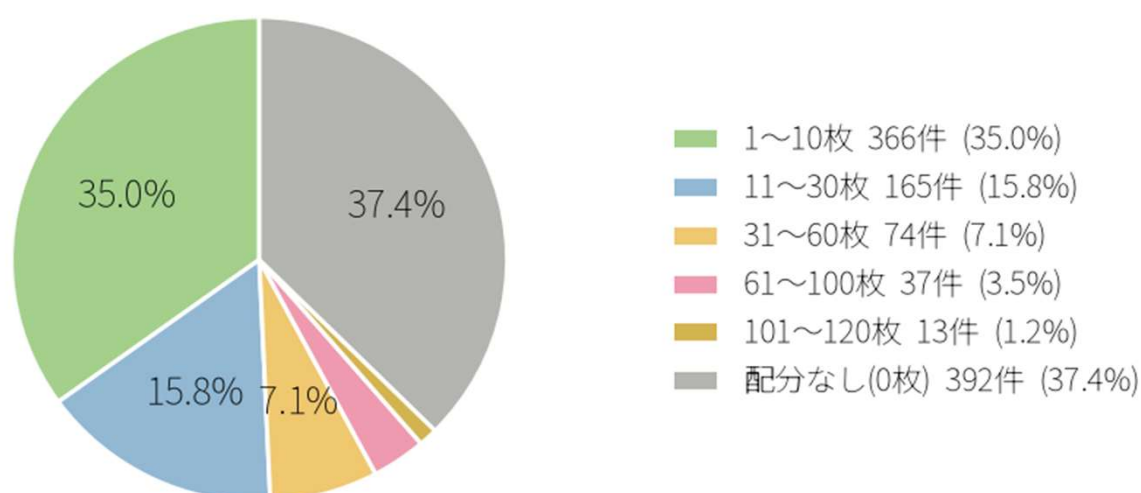
- 一般枠マイページ登録者数（2026年3月31日） 11,728名
- 2025年度さくらねこ無料不妊手術チケット申請者数 2,619名
- アンケート有効回答数 1,047件

3. アンケート結果

3-1. 無料不妊手術チケットの配分、使用状況について

■ 配分を受けたチケット枚数

有効回答 1047件



配分なし（0枚）が37.4%と最多だが、これはチケットを申請しなかった登録者も母数に含まれるためである。配分を受けた方のうち、1～10枚が最多（35.0%）で、少量チケットを丁寧に使いきる活動スタイルが主流となっている。



■ 配分されたチケットの使用率

有効回答 1047件

項目	件数	%
100%	183件	17.6%
80～99%	122件	11.7%
60～79%	90件	8.6%
40～59%	87件	8.4%
20～39%	67件	6.4%
1～19%	35件	3.4%
使わなかった(0%)	65件	6.2%
未回答	392件	37.7%
計	1047件	100%

配分を受けた方のうち、80%以上の使用率が合計29.3%、60%以上では約37%に達する。チケットが現場の活動に直結して有効活用されていることが確認できた。使わなかった（0%）も6.2%あり、捕獲の難しさや環境的制約が使用を阻むケースもある。

■ 一般枠以外のチケット使用状況

有効回答 1047件

項目	件数	%
一般枠チケット以外は使用していない	963件	92.0%
団体枠チケットの配分を受けている(受けていた)	11件	1.1%
行政枠チケットの再配分を受けている(受けていた)	71件	6.8%
団体枠チケット・行政枠チケット 両方の再配分を受けている(受けていた)	2件	0.2%
計	1047件	100%

行政枠チケットの再配分を受けている方が6.8%で、行政と個人ボランティアが連携する形でチケットが地域に届いていることが示された。一般枠ボランティアが地域のTNR活動の網を補完する役割を担っていることがわかる。



3－2．活動地域について

■ 地域猫活動の公式認定有無

有効回答 1047件

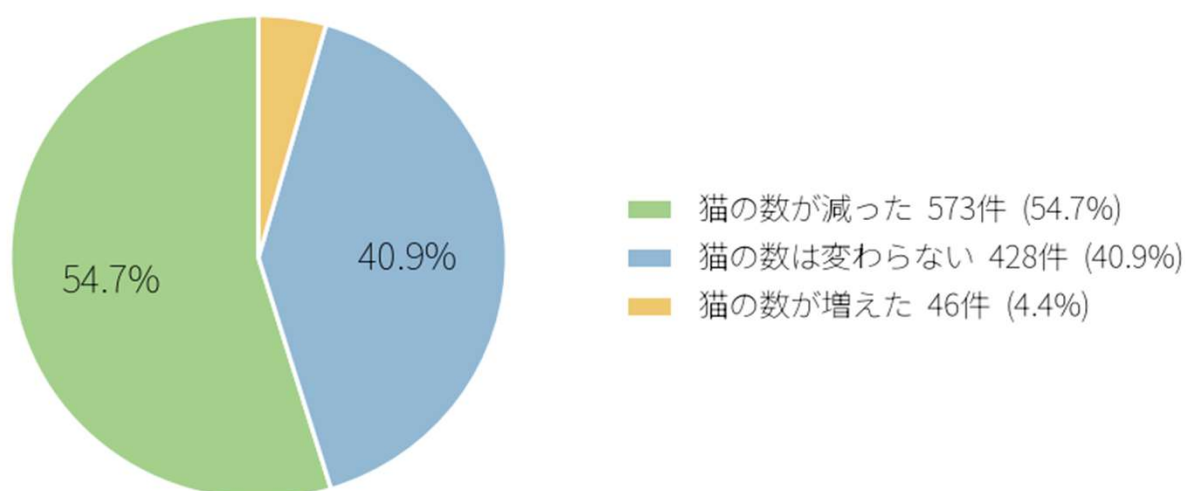
項目	件数	%
はい 行政から公式に認められた地域で、行政から支援を受けています。	91件	8.7%
いいえ	956件	91.3%
計	1047件	100%

行政公認の地域猫活動地域でのTNRはわずか8.7%にとどまり、91.3%は非公認地域での活動となっている。大多数のボランティアが行政の後ろ盾なしに地域の猫問題に取り組んでいる実態は、公的サポートの拡充を求める声と重なる。

3－3．TNR後の猫の状態と頭数の変化について

■ TNR後の猫の頭数の変化

有効回答 1047件

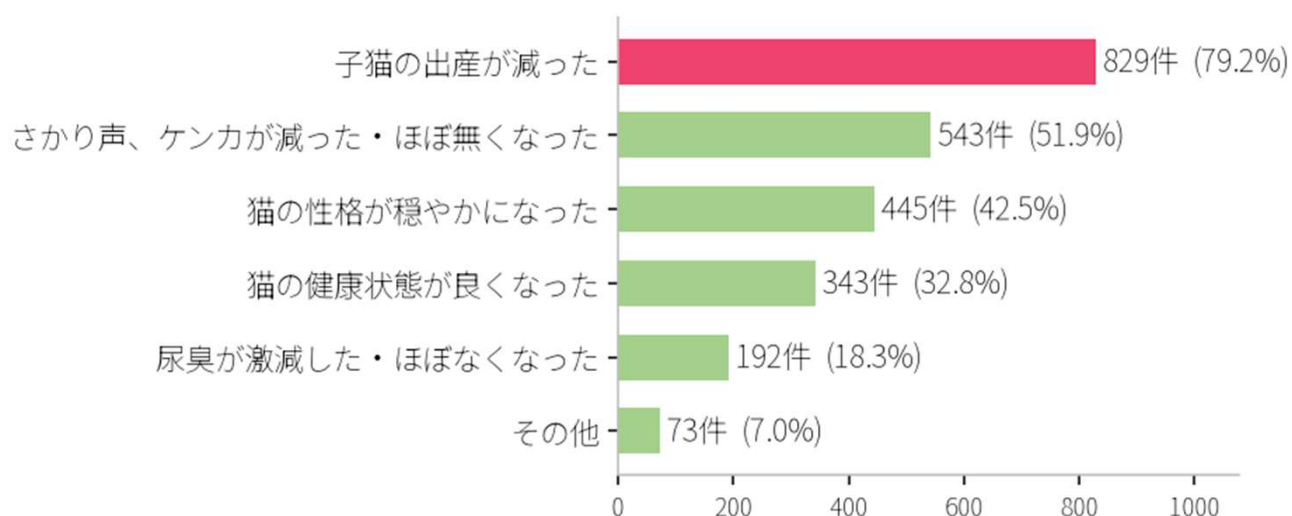


TNR後に猫の数が「減った」54.7%で過半数を超えたが、「変わらない」も40.9%と一定数を占める。移入や遺棄により頭数が維持されるケースも多く、単年度のTNRだけでなく継続的な取り組みの重要性が示されている。



■ TNRを実施した猫の変化(複数回答)

有効回答 1047件



「子猫の出産が減った」79.2%が最多で、繁殖抑制という最大の目的が確実に達成されていることがわかる。「さかり声・ケンカが減った」51.9%、「猫の性格が穏やかになった」42.5%と、手術後の猫自身の生活の質向上も多くのボランティアが実感している。

3－4．猫の保護や里親探しの実態

■ 保護・里親探しの実施

有効回答 1047件

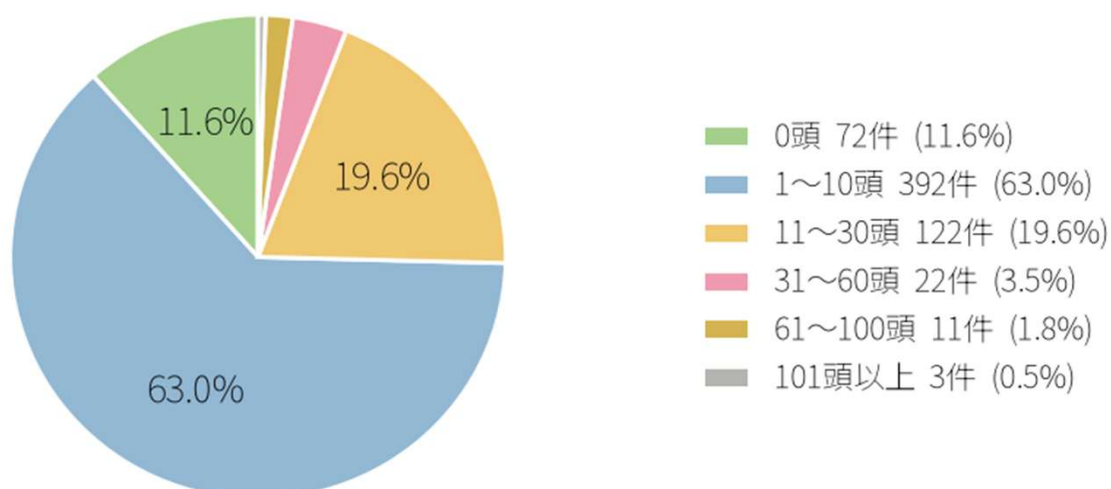
項目	件数	%
はい	624件	59.6%
いいえ	423件	40.4%
計	1047件	100%

約6割（59.6%）が保護・里親探しも実施しており、TNR活動にとどまらず多面的な動物福祉への関与が見られる。一方で、保護活動が続けるうちにボランティア自身が多頭飼育崩壊に陥るケースも後を絶たない。保護においては自分のキャパシティを決して超えないという自制が何より重要であり、無理のない範囲で継続する姿勢こそが長期的な活動を支える。



■ 過去一年間に保護・里親探しをした猫の数

有効回答 622件

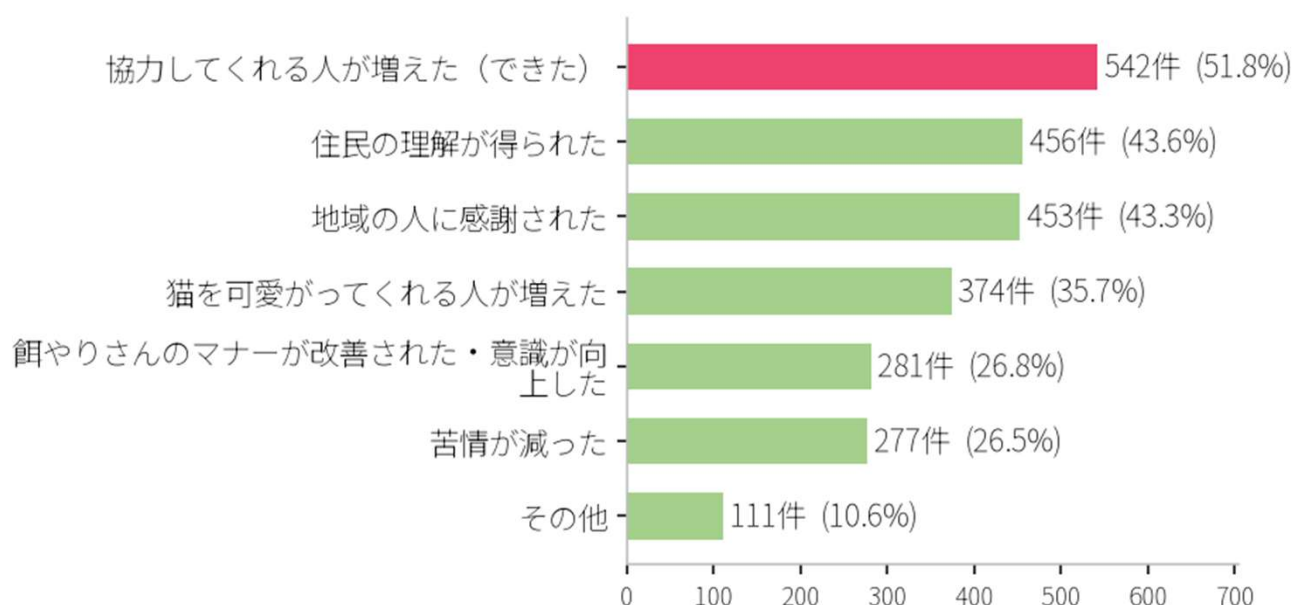


保護頭数は1～10頭が63.0%と最多で、個人の力量に見合った範囲での活動が多い。ただし31頭以上の大規模保護も6%弱存在し、支援が届きにくい状況下での限界を超えた活動の実態も垣間見える。

3－5．地域や行政との関わりについて

■ 地域住民との関わりの変化(複数回答)

有効回答 1047件



「協力者が増えた」51.8%、「住民の理解が得られた」43.6%、「感謝された」43.3%と、TNR活動を通じた地域コミュニティへの貢献が確認できた。苦情が減った（26.5%）という声も一定数あり、地域環境の改善にもつながっていることが示された。



■ 住民と猫ボランティアの関係

有効回答 1047件

項目	件数	%
良くなった	459件	43.8%
変わらない	581件	55.5%
悪くなった	7件	0.7%
計	1047件	100%

「良くなった」43.8%、「変わらない」55.5%と、良化が進みつつも過半数は変化なしとなっている。変化を実感するには時間がかかることを踏まえると、長期的な視点での活動継続と丁寧な関係構築が重要といえる。

■ 活動地域の行政との関係

有効回答 1047件

項目	件数	%
良い	410件	39.2%
関りがない	614件	58.6%
悪い	23件	2.2%
計	1047件	100%

「関りがない」58.6%が最多で、個人ボランティアが行政との接点を持つことの難しさが浮き上がった。「良い」39.2%という積極的な関与も一定数あり、行政と地域ボランティアをつなぐ橋渡し役の重要性が改めて示されている。



3－6．飼い猫の捕獲について

■ 飼い猫を捕獲したことがあるか

有効回答 1047件

項目	件数	%
はい	60件	5.7%
いいえ	987件	94.3%
計	1047件	100%

飼い猫の捕獲経験があると回答したのは5.7%にとどまり、大半のボランティアは適切にTNR対象を野良猫に限定して活動していることが示された。

3－7．ボランティアの活動実態について

■ 第二種動物取扱業の届出

有効回答 1047件

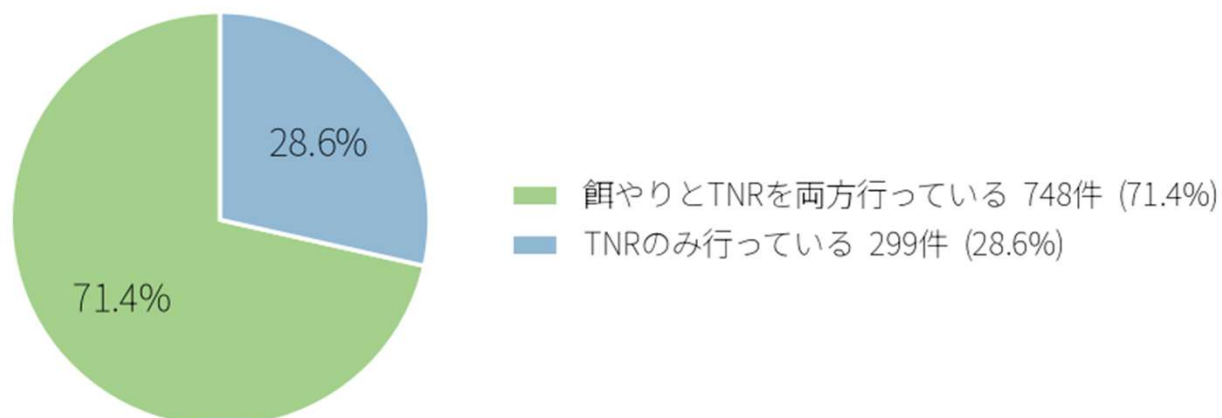
項目	件数	%
はい	50件	4.8%
いいえ	152件	14.5%
届出が必要な個人ではない	420件	40.1%
未回答	425件	40.6%
計	1047件	100%

「届出が必要な個人ではない」40.1%、「未回答」40.6%と、制度の理解・認知が不十分なケースが多い。届出義務の有無の判断が難しいことも一因と考えられ、継続的な情報発信が必要である。



■ 活動形態

有効回答 1047件



「餌やりとTNRを両方行っている」が71.4%で多数を占め、TNR単独にとどまらず地域の猫への継続的なケアも担うボランティアの姿が確認できた。

■ 飼っている(保護中を含む)猫の数

有効回答 1047件

項目	件数	%
飼っていない(0頭)	91件	8.7%
1～5頭	506件	48.3%
6～10頭	271件	25.9%
11～15頭	87件	8.3%
16～20頭	48件	4.6%
21～30頭	32件	3.1%
31～50頭	9件	0.9%
51頭以上	3件	0.3%
計	1047件	100%

飼育猫「1～5頭」48.3%が最多で、多くの方が自分の範囲内での管理を続けている。一方で21頭以上の大規模飼育者も一定数おり、保護活動の積み重ねが負担となっているケースも示唆される。



■ 餌やりをしている外猫の数

有効回答 1047件

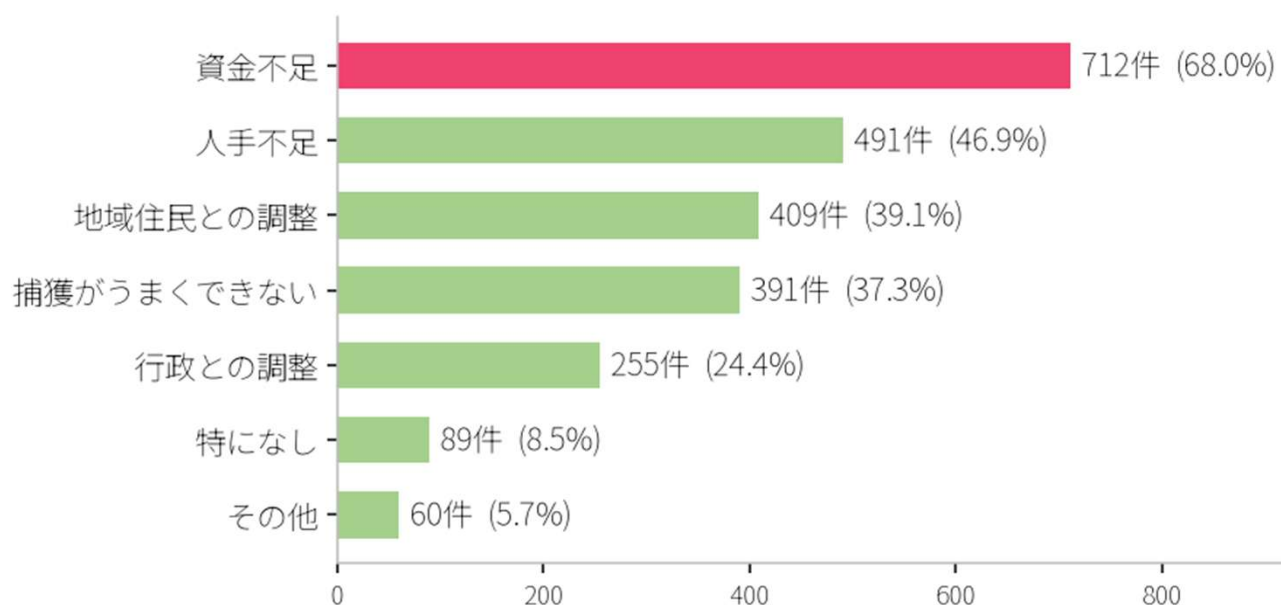
項目	件数	%
0頭	258件	24.6%
1～5頭	436件	41.6%
6～10頭	183件	17.5%
11～15頭	67件	6.4%
16～20頭	43件	4.1%
21～30頭	35件	3.3%
31～50頭	19件	1.8%
51～80頭	5件	0.5%
81～100頭	1件	0.1%
計	1047件	100%

外猫への餌やり「1～5頭」41.6%が最多で、身近な範囲での活動が中心となっている。51頭以上への世話を続けている方も少数ながら存在し、個人の活動規模の幅広さが見てとれる。

3－8．今後の課題について

■ 今後の課題(複数回答)

有効回答 1047件



「資金不足」68.0%が圧倒的に多く、経済的な厳しさが活動継続の最大の障壁となっている。「人手不足」46.9%、「地域住民との調整」39.1%がそれに続く。個人ボランティアの活動が多方面から制約を受けている現状は、社会的・制度的な支援体制の整備を強く必要としている。



4. ピックアップコメント

- 東京から福岡にUターンしたものです。田舎にもどると、大変な現実がまっていました。かわいそうという気持ちで、餌だけあげる、TNRのことに関心がある方もすくない。役場に相談しても、何の回答ももらえず、親の介護でもどって金銭的にまったく余裕もないけど、助けたい。そんなとき地元で自分で費用を出して頑張ってるボランティアさんに出会え、何十匹も自分で支払ってやりました。その後どうぶつ基金を知りました。どうぶつ基金のチケットがあるおかげで、わずかな力ですが、TNRをすることができてます。感謝しております。私も仕事が決まりましたら、サポートするつもりです。今は助けてもらってますが、皆様のお陰で、小さな命を守ることができています。心から感謝しています。
- 動物愛護活動に関わって31年になります。始めた頃は殺処分予定の子猫、子犬、成犬を引き取り健康診断と不妊手術をしてから譲渡していました。その後、センターに持ち込まれる野良の子猫を減らそうとTNR活動を開始。その頃は野良猫の不妊手術をしてくれる病院も少なく、また料金の協力もありませんでしたからびっくりするくらいのお金を使ってきました。これは主人が現役だったからできたことです。しかし、主人が定年し、約8年前にどうぶつ基金の無料チケット制度を知りました。数回チケットをいただいて、気になっていた猫たちの不妊手術ができました。1.2匹なら自腹でオペも可能ですが、それ以上になると費用負担が大きくなり躊躇してしまうことがあります。無料チケットのおかげで全頭一斉にTNRでき、かわいそうな野良猫を増やすことなく地域の苦情も減ってきました。この活動が継続できるのも、皆さまから頂いたご寄付のおかげと心から感謝しています。本当にありがとうございます。これからも活動を見守って頂けたら幸いです。
- お世話になっております。さくらねこサポーターの皆様には本当に感謝しかありません。私は老人世帯が多い地域でTNRを行っているのですが、餌はあげても手術までは出来ないとわれ、餌をあげて手術をしなかったら自ら増やしてるだけですと伝えても自分にとって痛い言葉は受け入れてくれません。なので動物基金を知るまでは自費で少しずつ行っていたのですが、動物基金のお陰でチケットが使える時はコンビニアをしてあげたり、手術+@が出来る時があります。本当に皆様には感謝しかありません。ありがとうございます。この地区は全頭するというのがなかなか難しい地区なので根気よくあきらめずTNRをしていこうと思っております。これからも何卒よろしく願います。
- メディア等で殺処分を待つ不安そうな眼差しの猫たちを見ていると何ともやりきれない気持ちで日々を過ごしていました。
- 今回TNR活動をしてみて、元いた場所に解放するときの喜び勇んで飛び出していく（様に見えてしまったのですが…）猫を見ると少しほっとした気持ちになりました。これから独りで生きていく子への心配と罪悪感を感じながら、その免罪符ではありませんが、不幸の連鎖がどこかで切れることを期待して、私もさくらねこサポーターとなって皆さんと共に活動を支えて行けると良いなと感じています。



5. 総括

2025年度の一般枠アンケートには有効回答1,047件をいただきました。回答者は50代女性を中心とする個人ボランティアが主体で、全国の地域猫活動の最前線を担う方々の実態が浮かび上がりました。

TNR後に猫の数が「減った」と感じるボランティアは54.7%、「子猫の出産が減った」は79.2%に上り、繁殖抑制という事業の中核目標が確実に達成されていることが示されています。一方、行政が地域猫活動を認めている地域での活動はわずか8.7%にとどまっており、個人ボランティアの大多数が、行政の後ろ盾なしに地域の猫問題に取り組んでいる実態があらためて確認されました。

地域住民との関わりでは「協力者が増えた」51.8%、「感謝された」43.3%と地域への貢献が実感される一方、行政との「関りがない」が58.6%と過半数を占めています。飼い主のいない猫の問題は地域の問題であり、本来、行政が主導して対応すべき問題です。地域事情をよく知る個人ボランティアと行政が協働すれば、TNRは驚くほど速く進み、高い効果も得られます。今後の課題として、行政と民間の連携強化があげられるでしょう。

保護・里親探し活動を行うボランティアは59.6%に上ります。保護活動は猫の命を救う大切な取り組みですが、積み重ねるうちに自身が多頭飼育崩壊に陥るリスクもあります。自らのキャパシティを定め、無理なく続けることが長期的な活動の基盤となります。保護とTNRは問題解決に向けた車の両輪です。バランスよく進めていくことが求められます。

今後の課題は「資金不足」68.0%、「人手不足」46.9%と構造的な問題が根深く、さくらねこ無料不妊手術チケットがボランティア活動を支える最も重要な柱の一つとなっていることが確認されました。

しかし、個人ボランティアが自らの資金を投じ、地域の問題を解決する構図は決して当たり前のことではありません。地域行政と地域住民が自らの問題であることを受け止め、協力して解決に向けて体制を作りあげていくことが重要です。